



# 基本構想





# 1 神崎町のこれから

## (1) まちづくりコンセプトと戦略

### まちづくりコンセプト

生き生きわくわく 人も発酵するまち こうざき  
～ 今より一歩前へ そして、次世代へのバトンパス ～

「道の駅 発酵の里こうざき」は、平成27(2015)年に重点道の駅に登録されて以来、多くの人に利用されるようになりました。

「発酵」というキーワードをもとに、全国各地の発酵食品などを取り扱い、発酵体験なども行われ、地元の酒蔵の協力も得ながら地元住民にも「発酵の里」が浸透し、評価されてきました。

この間、想定よりも本町の人口は減少傾向で推移し、空き家や空き地が目につくようになり、子どもの数も減少しています。

この先10年間、私たちの住む神崎町は、道の駅を中心とした周辺整備プロジェクトが進行していきます。一方で、風にそよぐ農地を覆う緑の海が私たちのふるさとの変わらぬ光景として残っています。

10年先を見据えて、子や孫たちに、誇るべき神崎町を残していくために、住民とともにまちづくりを推進していきます。

### 発酵によるまちづくりについて

「発酵によるまちづくり」を進めてきて、賛否両論さまざまなご意見がありました。

発酵は、一歩間違えれば「腐る」ことになります。しかし、有益なものになれば、「発酵」になります。そこには、微生物などが関わり、熱エネルギーが介在します。

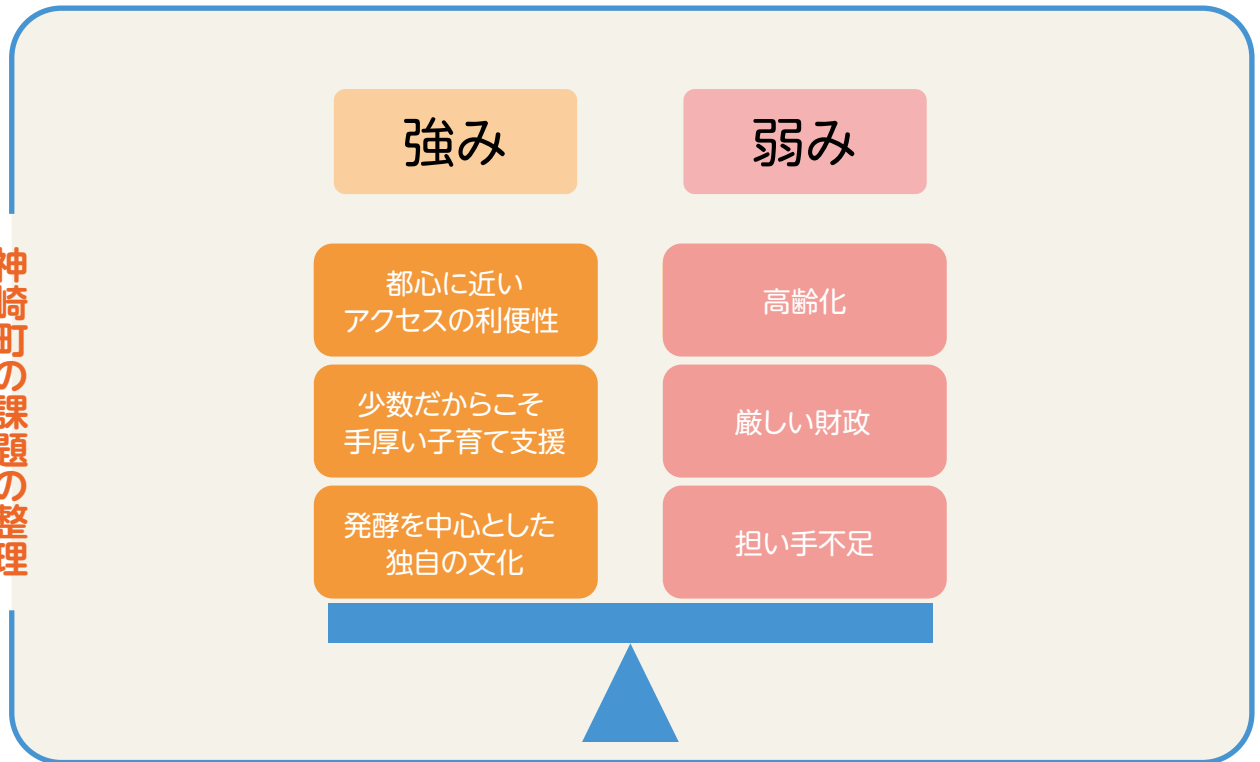
まちづくりも似たところがあります。

住民が知恵を出し合い、協力し、町外の人も受け入れながら熱を発し、文化や人とのつながりなど有益なものを生み出していく。

古くから持つ「発酵」という町の文化を見つめなおし、直接的・間接的に活用することで、新たな文化を生み出していきたいと思えます。

“人も発酵するまち”とは・・・「発酵＝わくわくすること、変わり続けること、良くなること」に例えられることがあります。人もわくわくし、変化に対応し変わり続け、そして成長し良くなっていく、このコンセプトにはそのような意味が含まれています。

神崎町の課題の整理



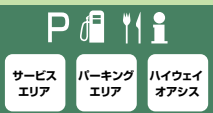
神崎町は、強みを伸ばして弱みに適切に対応しながら、今いる住民を第一に考え、住民がわくわくするまちづくりを進めます！

3つのまちづくり戦略



子育て世代にやさしいまちづくり

- ・子育て支援サービスの見直し・充実
- ・子どもを産んで暮らしたくなる環境づくり



ハイウェイオアシス

- ・神崎IC周辺の開発
- ・道の駅の集客力強化



発酵の里づくり

- ・「発酵」を統一テーマにしたまちづくりの推進
- ・誰もが生き生きと住み続けられるふるさと(発酵の里)づくりの推進

+ Society5.0によるスマート自治体への転換(検討項目)

## (2) 基本目標

まちづくりコンセプト「生き生きわくわく 人も発酵するまち こうざき」を推進すべく、次のとおり、3つのまちづくり戦略と6つの基本目標を定めます。

**生き生きわくわく 人も発酵するまち こうざき**  
 ～ 今より一歩前へ そして、次世代へのバトンパス ～

子育て世代に  
やさしいまちづくり

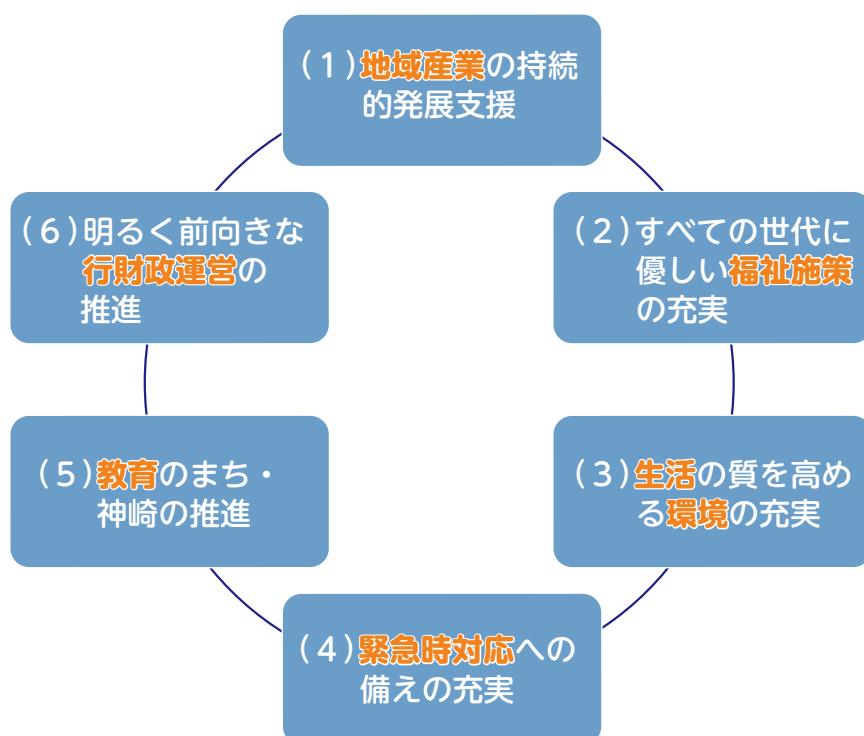
- ・ 子育て支援サービスの見直し・充実
- ・ 子どもを産んで暮らしたくなる環境づくり

ハイウェイオアシス

- ・ 神崎IC周辺の開発
- ・ 道の駅の集客力強化

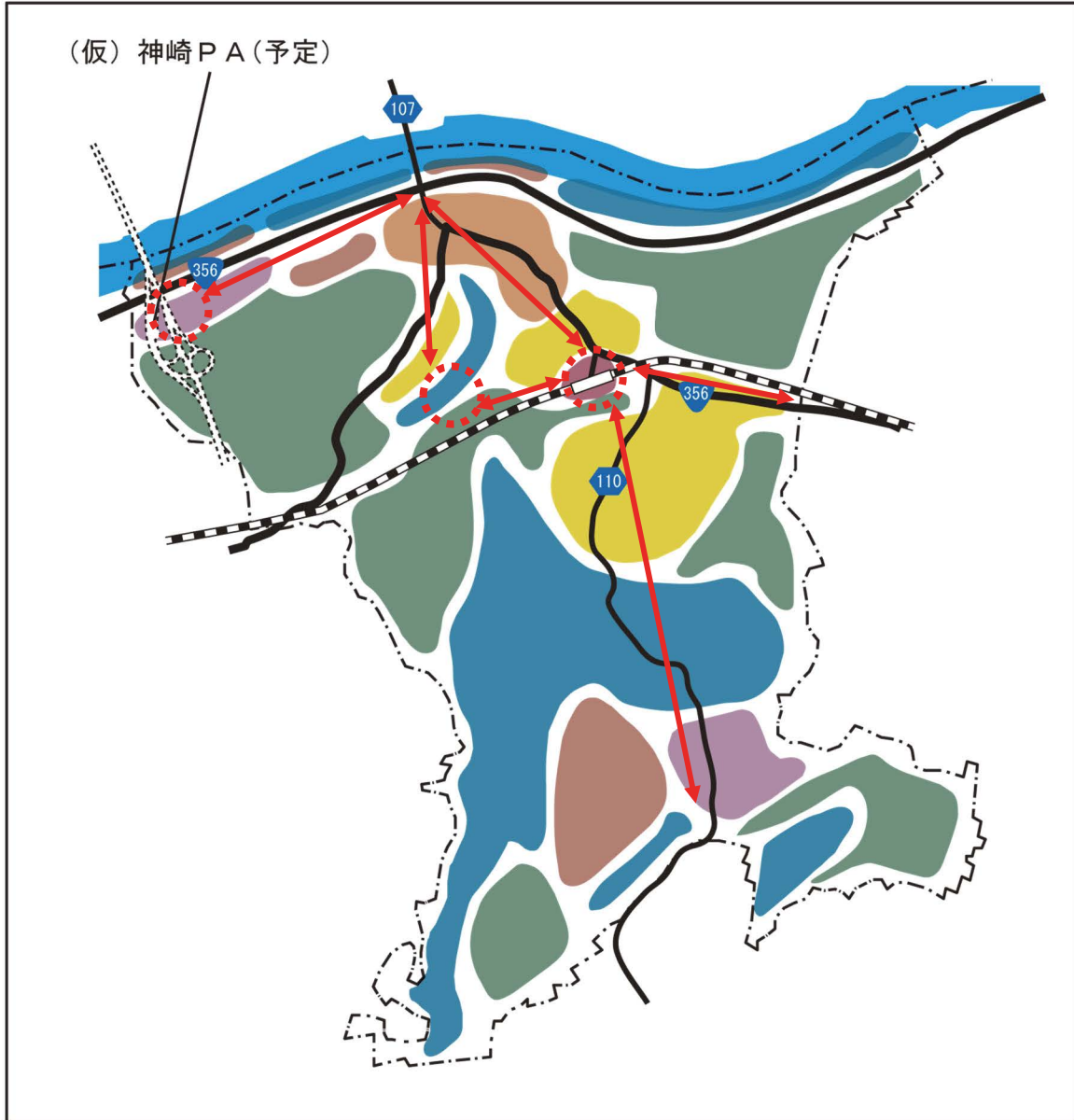
発酵の里づくり








- ・ 「発酵」を統一テーマにしたまちづくりの推進
- ・ 誰もが生き生きと住み続けられるふるさと(発酵の里)づくりの推進





### (3) 土地利用構想

基本構想



凡 例	
	駅周辺地区
	既成市街地地区
	住宅地地区
	商工業地区
	農業地区
	観光レクリエーション地区
	自然環境保全地区

	動線
	拠点

下総神崎駅、道の駅発酵の里こうざき、わくわく西の城を3つの拠点とし、多くの人が行き交う活気のあるまちづくりを推進

本町における土地利用区分を7つの地区に区分し、これらを結ぶ基幹的道路体系の整備とあわせて地区ごとに次のような土地利用を進めます。

### ① 駅周辺地区

J R 下総神崎駅周辺地区は本町の玄関口であり、まちの顔としてふさわしい景観形成に配慮した整備を進めます。

### ② 既成市街地地区

町北部の既成市街地については商業環境の再生や発酵のまちづくりと連携した産業観光地として整備、良好な住環境の向上等に努め、賑わいのある市街地の形成に努めます。

### ③ 住宅地地区

既成市街地に連担する住宅集積地や町中央部の新興住宅地区、農村集落集中地区等については、生活道路や身近な広場・公園などの生活環境整備を推進するとともに、住宅耐震化や良質な住宅開発等を誘導し、良好な住宅地環境の形成に努めます。

### ④ 商工業地区

南部の既存工業団地地区と北部の圏央道神崎IC周辺を商業や工業などの産業立地促進地区と位置づけ、経済動向等を見極めつつ計画的に道の駅の整備や優良企業の立地促進等を図ります。

### ⑤ 農業地区

まとまりのある優良農地については農業地区と位置づけ、生産性の高い集約農業生産地として長期的に保全するよう努めます。

### ⑥ 観光レクリエーション地区

北部の利根川沿岸、天の川公園、こうざき自然遊歩道、さらには南部のゴルフ場等を観光レクリエーション地区として位置づけます。

天の川公園やこうざき自然遊歩道は、釣りや散策・ウォーキングなど町民の憩いの場として、さらには利根川舟運船着場の活用と併せて観光レクリエーションの拠点として整備を図ります。また、観光レクリエーション施設相互の繋がりが弱いことからそれぞれの施設を関連づけたネットワーク整備に努めます。

### ⑦ 自然環境保全地区

町土保全のため、また水源かん養等のため、観光レクリエーション地区の適地として設定された地区を除き、南部森林地域については林地保全を、北部利根川沿い地域については流域保全を、それぞれ徹底し、両域を自然環境保全地区と位置づけ、開発行為等については極力抑制し、森林環境、流域環境の保全を図ります。

## 2 2030年に目指す目標



### (1) 地域産業の持続的発展支援

5年後・10年後の農業を見据えた取り組みとして、農地保全や担い手の確保、スマート農業の促進を図り、収益性の高い農業へと変革すべく支援をしていきます。また、商工業についても持続的な経営支援を図りつつ、道の駅周辺整備やハイウェイオアシスの整備と合わせて既存事業者の活性化を促進します。観光においては、「発酵」をテーマとした取り組みを推進し、町内各所への誘客を図ります。



## (2) すべての世代に優しい福祉施策の充実

高齢者、障がい者(児)、子どもの福祉など、各福祉分野での課題を横断的に取り組む体制を整備し、関係機関と相互の連携を強化します。子育て支援センターによる相談・支援体制の強化や、高齢者や障がい者などの交通弱者対策など、住民の声を聞きながらきめ細かな福祉施策を推進していきます。



## (3) 生活の質を高める環境の充実

住民生活を送る上で欠かせない社会インフラ(道路・交通・ごみ・水道等)については、多額の維持更新費用がかかる見込みです。生活に必要な不可欠なことから優先順位を決めつつ、計画的な取り組みに努めます。



## (4) 緊急時対応への備えの充実

2019年に本町は台風15号によって大きな被害を受けました。全国各地で大地震や気象災害が起こり、2020年の新型コロナウイルスの社会的影響はかつてないほどの先行きの不安を与えました。本町は比較的災害が少なかったものの、こうした気象条件等の変化への対応を着実に進めていくこととします。



## (5) 教育のまち・神崎の推進

児童・生徒の数が減少する中、本町の学校生活を楽しく有意義に過ごせるように環境整備に取り組んでいきます。また、本町には酒蔵まつりをはじめ、お祭りやイベント、文化的行事がたくさんあります。郷土の歴史や文化を知るためにも、また、住民の郷土愛を育むことにもつながることから、生涯学習のまちづくりを推進します。



## (6) 明るく前向きな行財政運営の推進

本町は今後人口が減少することが予測され、これに伴い財政的にも運用が厳しくなることが予想されます。事業等の改廃や規模の見直しなども行いながら、小さな町だからこそできる機動力のある創意工夫に満ちた行財政運営に努めます。

